



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1. 「ユネスコスクール研修会：ESD と地球市民教育 － 地球市民アイデンティティの形成に向けたユネスコスクールの新たな展望」

玉川大学教育学部は、2016年11月26日（土）の午後、玉川大学の University Concert Hall 106 教室にて「ユネスコスクール研修会：ESD と地球市民教育」を開催した。これまで毎年行われてきた研修会の成果をふまつつも、今年度の「ユネスコスクール研修会」では、いくつか新たな機軸を打ち出した。

ひとつは、テーマ設定として、ユネスコの新たな教育プログラムである「地球市民教育」(GCED: Global Citizenship Education) に着目したことである。ユネスコスクールは、持続可能な社会の担い手を育てる ESD (持続可能な開発のための教育) の推進拠点として大きな役割を果たしてきたが、この ESD の展開を受けたユネスコの新たな教育イニシアティブとして現在、地球市民教育が注目されている。2013年にユネスコ主導の国連プログラムとして発足した「地球市民教育」は、多文化化する現代社会において文化的背景の異なる人々との共生およびグローバルな諸問題への当事者意識と共生的解決への行動力を育成する教育理念として、世界各地で理論的、実践的取り組みが進んでいる。こうした流れを受け、今回の「ユネスコスクール研修会」では、日本とくに首都圏の学校教育において、持続可能性と地球市民性という2つの教育課題がどのように関わりあい、統合されるのかを検討することを試みた。同時に、青少年の心の中にグローバル時代の要請に即した人格発達を支えるような地球市民性への心性を養うために、地球市民教育の諸課題をふまえた指導のできる教員を養成をすることを目標とした。

今年度の「ユネスコスクール研修会」のもうひとつの特徴は、国際間の対話をプログラムに盛り込んだことである。講師にアジア太平洋国際理解教育センター (APCEIU) のウタク・チュン (鄭雨倬) 所長を招聘した。地球市民教育 (GCED) を理論、実践ともに精力的に進めている APCEIU 所長のウタク・チュン氏から地球市民教育の最先端の情報を提供して頂き、国際的視野を導入したユネスコスクール研修会にすることができた。またパネリストとして、ウタク・チュン氏と共に、ESD に関する気鋭の研究者である東京都市大学の佐藤真久教授と、日本で最初にグローバル・シティズンシップ科を開設し、学校現場で地球市民教育を展開している上尾市立東中学校の松倉紗野香研究主任にご登壇頂いた。国際機関、大学での学術研究、学校現場の教育実践という多様な場における専門家が集い対話することで、ESD と地球市民教育について多角的かつ複眼的な議論が展開された。

小原芳明学長の開会の辞で始まった平成 28 年度の「ユネスコスクール研修会」には、計 62 名が参加した。ESD と地球市民教育というユネスコの主軸となる教育プログラムを中心に、グローバル時代におけるユネスコスクールのあり方をとくに教師教育の観点から問い直し、新たな時代状況に対応する教育力の育成をめざした実り多い研修会になった。

#### 2. 「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」ホームページの運営管理

多摩市や稲城市、川崎市、横浜市など近隣自治体とのユネスコスクールにおけ

る連携を強め、ASP 地域ネットワークとしての機能を拡充するために、平成 24 年度に開設した WEB 上のホームページ「ユネスコスクール多摩地域ネットワーク」(<http://unesco-school-tama.jp>) を本年度のユネスコスクール活動の拡充と連絡体制の強化のために運営管理した。

### **3. 第8回ユネスコスクール全国大会への参加**

2016年12月3日に、金沢大学で開催された『第8回ユネスコスクール全国大会』に本学教育学部の小林亮教授が参加し、全国からの参加者とともにユネスコスクールの課題と将来展望についての議論に参加した。

### **4. ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)の活動**

a) ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の加盟大学として、「平成28年度 日本／ユネスコ パートナーシップ事業」に関する ASPUnivNet 第1回、第2回連絡会議に参加し、加盟大学間のネットワーク強化と共同事業の展開に向けた提案と協議を行った。

b) ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) の運営委員会を構成する運営委員として、とくに ACCU、奈良教育大学 (運営委員長)、中部大学、福岡教育大学と連携しながら、ASPUnivNet の事業運営にあたった。

### **5. 第2回ユネスコスクール神奈川県大会**

2016年8月27日に横浜シュタイナー学園で開催された「第2回ユネスコスクール神奈川県大会」の企画運営に参加した。また本学教育学部の小林亮教授は、当大会の成果および神奈川県におけるユネスコスクールネットワークの将来展望について講評を行った。

### **6. APCEIU 主催「地球市民教育国際会議」への参加と司会**

「アジア太平洋地域国際理解教育センター」(APCEIU) が地球市民教育に向けた教員の教育力形成を目的として2016年10月24日～25日に韓国ソウルで実施した「地球市民教育国際会議」(International Conference on Global Citizenship Education) に本学教育学部の小林亮教授が招聘され、GCED に関するホールスクールアプローチの課題と可能性を検討する部会の司会と総括を行った。

### **7. 「平和と持続可能な開発のためのユネスコ週間」への参加**

ユネスコおよびカナダ・ユネスコ国内委員会の主催により2017年3月6日～10日にオタワのショーセンターで開催された「平和と持続可能な開発のためのユネスコ週間」(UNESCO Week for Peace and Sustainable Development) に本学教育学部の小林亮教授が参加した。とくに、ユネスコスクール (ASPnet) 国際コーディネーターのサビーネ・デッツェル氏 (Sabine Detzel) によるユネスコスクールのためのワークショップ (3月7日に ESD ワークショップ、3月10日に GCED ワークショップ) に参加し、各国のユネスコスクール関係者と情報交換や交流を行うと同時に、国境を超えた ASPnet 協同プロジェクトの可能性や意義について協議を行った。また ESD (GAP) と GCED の関係性や統合に向けた展望についても

ユネスコ本部の理解を含め、参加各国からの関係者との議論を通じて理解と考察を深めることができた。

## **8. ユネスコスクール支援活動**

a) 2016年8月31日に桜美林中学・高等学校で開催された「ユネスコスクールESD研修会」にて講師として招聘され、ユネスコスクールとESDの世界的動向、およびユネスコスクールに加盟することの教育的意義についての講演を行った。

b) 2017年2月2日に町田市立小山田小学校にて、日本ユネスコ協会連盟の「ESDパスポート事業」の一環として、ESD活動における「平和の文化」の意味、およびネパールのユネスコスクールと交流を行うことの意義について模擬授業を行った。また平和の絵本「ピースブック」をテーマにした玉川大学ユネスコクラブの学生と小山田小学校児童との交流会を実施した。

## **9. ユネスコスクール加盟申請書の添削修正**

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)加盟大学として、ACCUからの依頼に基づき、平成28年度は、以下の13校のユネスコスクール加盟申請書の添削と、修正へのコメントを行った。

- ・ 東京都大学等々力中学高等学校
- ・ 目黒区立上目黒小学校
- ・ 板橋区立板橋第二小学校
- ・ 文京学院大学女子中学校高等学校
- ・ 牛久市立奥野小学校
- ・ 牛久市立牛久第二中学校
- ・ 大田区立東調布中学校
- ・ 板橋区立板橋第七小学校
- ・ 智学館中等教育学校
- ・ 世田谷区立船橋希望中学校
- ・ 板橋区立板橋第七小学校
- ・ 大森区立大森第四中学校
- ・ 東京ゆりかご幼稚園

## **10. 玉川大学ユネスコクラブの活動**

### **a) 第3回ユネスコクラブ全国サミット**

前述の「ユネスコスクール研修会：ESDと地球市民教育」のサイドイベントとして、2016年11月27日、玉川大学ユネスコクラブ主催により玉川大学・大学教育棟にて、「第3回ユネスコクラブ全国サミット」を開催した。玉川大学ユネスコクラブ、奈良教育大学ユネスコクラブ、広島大学ユネスコクラブ、ICUユネスコクラブ、慶應大学ユネスコクラブの5団体の代表学生30名が参加した。これに先立って、APCEIU 所長ウタク・チュン氏とこの参加5大学のユネスコクラブ学生グループとの対話フォーラムを開催し、日韓両国の大学および学校現場におけるユネスコ活動の現状と課題、さらにESDや地球市民教育に焦点化した日韓の大学生交流の可能性についても議論を交わした。

「第3回ユネスコクラブ全国サミット」では、前日11月26日の「ユネスコスクール研修会」での議論をふまえて、学校の各教科においてESDおよび地球市民教育（GCED）を含むユネスコの教育理念を効果的に児童生徒に伝えてゆくための具体的な授業指導案を共同で作成した。昨年の「第2回ユネスコクラブ全国サミット」と同様、分科会方式を導入し、国語科、英語科、社会科、理科、芸術、道徳の6教科（ないし領域）において、児童生徒にESDをはじめとするユネスコの理念を効果的に伝えてゆくにはどのような授業構成が可能かを具体的な指導案を作成することで探求した。またその協同作業を通じた振り返りを行い、「平和の文化」推進に向けて大学ユネスコクラブの果たすべき役割とその将来展望について協議を行った。「『平和の文化』構築とESDおよび地球市民教育の推進に向けた大学生からの提言」という基調テーマのもと、平和で持続可能な社会の実現に向けて、とくに学校教育の現場においてユネスコ活動に携わる教師には何ができるのかという問いに焦点化して具体的な授業指導案を協同作業で作成したことにより、ユネスコクラブ・協会とユネスコスクールの連携可能性について一つの具体的な道筋の展望を見出せたと考えている。

#### b) 訪日訪問団との交流プログラム

ユネスコスクールに設置された課外活動団体として玉川大学ユネスコクラブは、2016年6月23日～7月3日にかけて、玉川大学との提携校でもあるアメリカ・エヴァーグリーン大学の日本への訪問学生団との交流プログラムを実施した。交流会では、日米両国の文化や教育事情についてお互いに紹介をすると同時に、社会格差、民族対立やテロなど、国や文化圏を超えて人類が共通に直面するグローバルな諸問題について大学生の立場から議論と意見交換を行い、「地球市民」としての自覚を深めるきっかけ作りとして活用した。またエヴァーグリーン大学生訪問団のための鎌倉へのガイドツアーを実施し、東光禅寺にて英語による座禅の指導を受ける座禅セミナーを行った。同じく玉川大学の提携校であるシンガポール国立大学の訪問学生団とは、2016年5月30日に交流会を行い、アジア・太平洋地域における教育問題と域内交流の進化についての課題共有を行った。

#### c) 京都・奈良スタディツアー

2016年8月22日～25日に京都および奈良にスタディツアーを行った。京都では京都ユネスコ協会および京都外国語大学、奈良では奈良教育大学ユネスコクラブとの交流会をそれぞれ実施し、地域をつなぐユネスコスクール間およびユネスコクラブ・協会間の連携とESD協同プログラム開発について協議を行った。また京都外国語大学のASPUivNet加盟に向けた支援活動を行った。

#### d) UNESCO ユースセミナー2016

東海大学主催の「UNESCO ユースセミナー2016：多文化・多様化する日本の学校」（2016年7月30日）に玉川大学ユネスコクラブの学生グループが参加し、東海大学はじめ、本セミナーに参加した神奈川県下のユネスコスクール加盟校の生徒との交流と情報交換を行った。

#### e) さがみはら国際交流フェスティバル

2016年10月2日に相模原市淵野辺で開催された「さがみはら国際交流フェスティバル」に参加し、留学生の日本語スピーチ大会のファシリテーターを務め

た。また留学生グループとの交流を深めた。

#### f) 第2回奈良 ESD 実践研修

2016年10月8日・9日に奈良教育大学ユネスコクラブが主催した「第2回奈良 ESD 実践研修」に参加し、ESDの視点からの大学生による地域貢献のあり方について協議を行い、また共同の実践活動を行った。

#### g) ユネスコクラブ交流会

2017年1月28日・29日に玉川大学を会場として、玉川大学ユネスコクラブと奈良教育大学ユネスコクラブの部員学生が集い、「第3回ユネスコクラブ全国サミット」の成果をふまえながら、ESDの更なる推進に向けての大学生の貢献および大学間協同のさまざまな可能性について互いの活動報告も併せて協議した。今後も定期的にこうしたユネスコクラブ交流会を実施してゆくことで合意した。

#### h) ネパール・スタディツアー

玉川大学ユネスコクラブは、2017年2月13日～19日に、ネパールの首都カトマンズにスタディツアーを行った。このネパール・スタディツアーには、二つのねらいがあった。ひとつは、平和と持続可能性をテーマにした絵本の制作を行う「ピースブック・プロジェクト」の活動である。2015年4月25日に発生したネパール大地震で被害を受けた被災地の学校（ユネスコスクール）と寺子屋（GLC）に、ユネスコクラブの学生が作成した絵本を、平和と復興の応援メッセージとして手渡してることが計画された。もうひとつの目的は、仏教の伝統など日本人と多くの面で共通の歴史文化遺産を持つネパールの社会の現状と教育課題を現地で直接、関係者から学んでくることであった。

ネパール教育省事務次官補（Under Secretary）のゴヴィンダ・プラサド・シャルマ氏（Govinda Prasad Sharma）のご紹介により、ネパール教育省に招かれ、教育省副次官のハリ・プラサド・ラムサル氏（Hari Prasad Lamsal）と会見させて頂いた。ラムサル副次官からは、ネパールの学校教育の現状と課題について詳細な情報提供を頂いた。また、同じ教育省の中にあるネパール・ユネスコ国内委員会を訪問し、事務次長のカムレシュワール・クマール・シンハ氏からネパールにおけるユネスコ協会・クラブの諸活動について紹介を頂いた。

日本ユネスコ協会連盟の紹介により、識字教室であるクンベシュウォール寺子屋（Kumbheshwor GLC）および国立ノンフォーマル教育リソースセンター（National Resource Center for Non-Formal Education）を訪問した。就学が困難な地域における識字・職業教育プログラムとその成果についてヒアリングを行い、ネパールにおける識字教育の現状と課題を学んだ。

さらにカトマンズ市内のユネスコスクール加盟校であるヴィシュワ・ニケタン高等学校（Vishwa Niketan Higher Secondary School）を訪問し、ヘランバ・カデル校長先生（Heramba Kadel）および教務主任のビクラム・パーリヤ先生（Bikram Pariyar）らの案内のもと、当校の生徒達と親密で実り多い交流をすることができた。ユネスコスクールとしての共通課題についても問題意識の共有を行い、今後も学びあいのつながりを生かしてゆくために交流を継続してゆくことで合意した。

最後にカトマンズ地域教育事務所（DEO: District Education Office in Kathmandu）を訪問し、ジャヤプラサド・アチャルヤ所長（Jayaprasad Acharya）から、ネパールの教育体制の現状や将来に向けての課題について講義を受けた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（「ユネスコスクール研修会」などのイベント）